



## ながら SDGs 通信 第 16 回 目標 13. 気候変動に具 体的な対策を



長柄町タウンアドバイザー／千葉大学大学院国際学術研究院 田島翔太

気候変動とは、大気中の温室効果ガスの増加を原因とする地球温暖化によって、長期的に地球の気温や気象が変化することです。地球温暖化により、深刻な干ばつ、大規模な森林火災、氷の融解、海面上昇などが起こっています。日本では、1898年以降、平均気温は約1.1°C上昇し、1980年頃と比較して強い雨が降る頻度はおよそ2倍に増えました。

「目標 13. 気候変動に具体的な対策を」では、自然災害から立ち直る力（レジリエンス）の強化、国の対策や戦略づくり、教育活動などの具体的な目標を掲げています。また、SDGs と同年の国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定では、地球の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて世界全体で2°C以内、できれば1.5°C以内にするという目標が掲げられ、各国で取組みが進められています。

【出典】日本ユニセフ協会「13.気候変動に具体的な対策を」  
文部科学省・気象庁・環境省「日本の気候変動とその影響」  
気象庁「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」